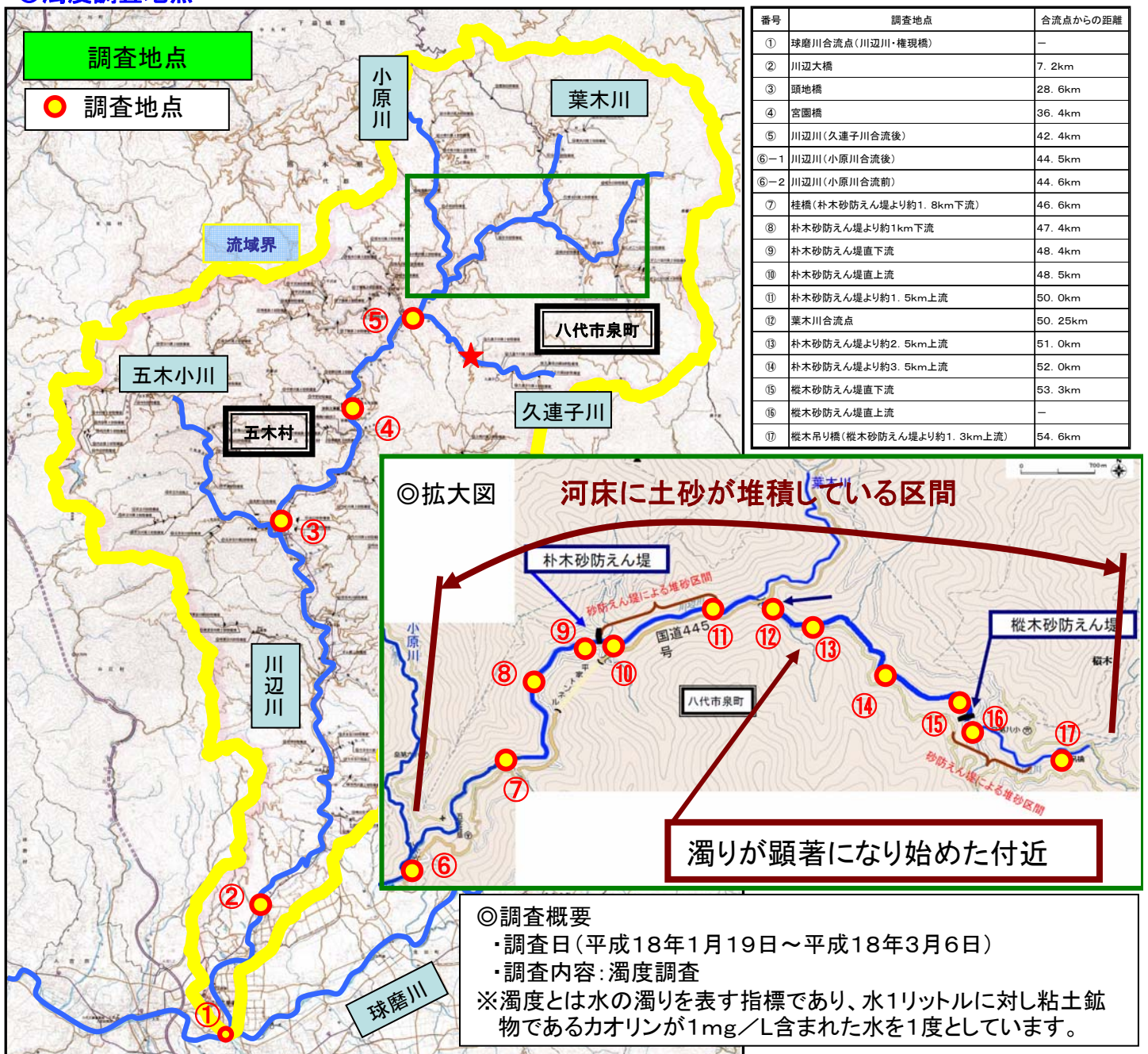


Q3: 砂防えん堤と濁りは関係ないのでしょうか？

A3: 台風以降、川辺川の濁度調査を実施した結果、砂防えん堤の有無にかかわらず、河床に土砂が堆積している区間では濁りが大きくなり、堆積が少ない区間では支川から澄んだ水の流入により濁りが希釈されていく傾向となっています。砂防えん堤の堆砂区間のみで濁りが発生・助長している状況ではありません。

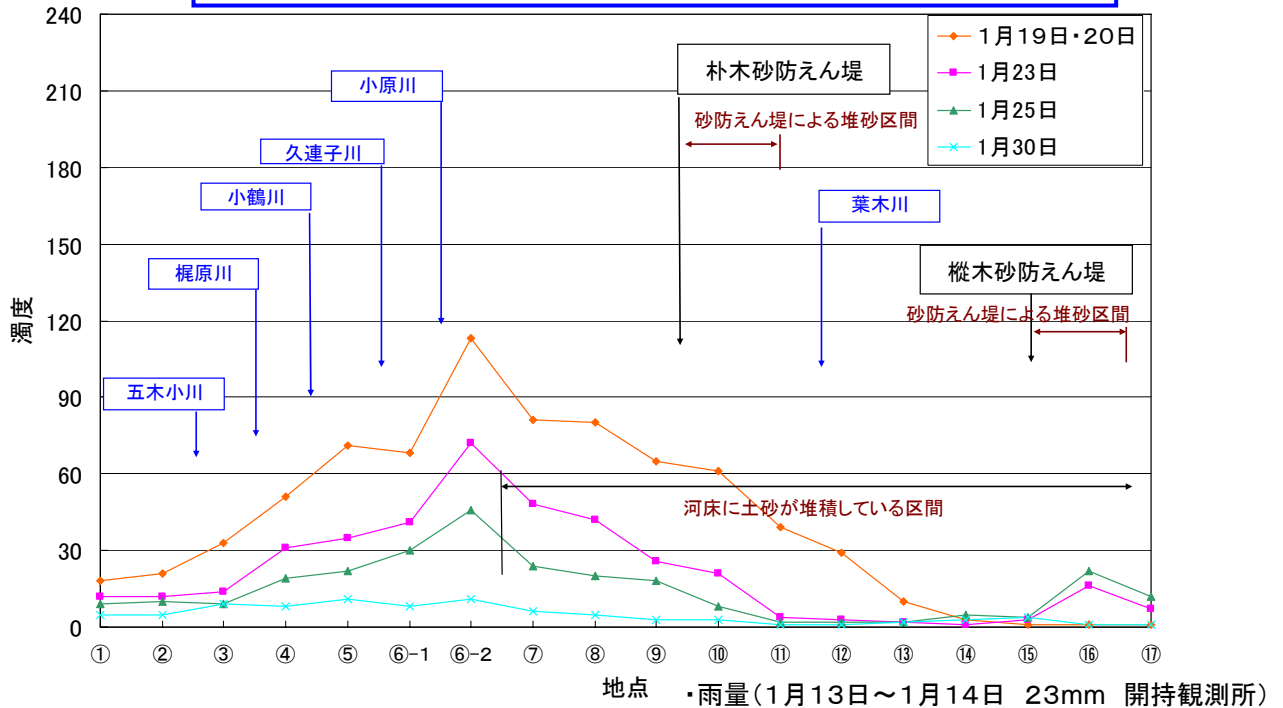
◎濁度調査地点



◎濁度調査の結果

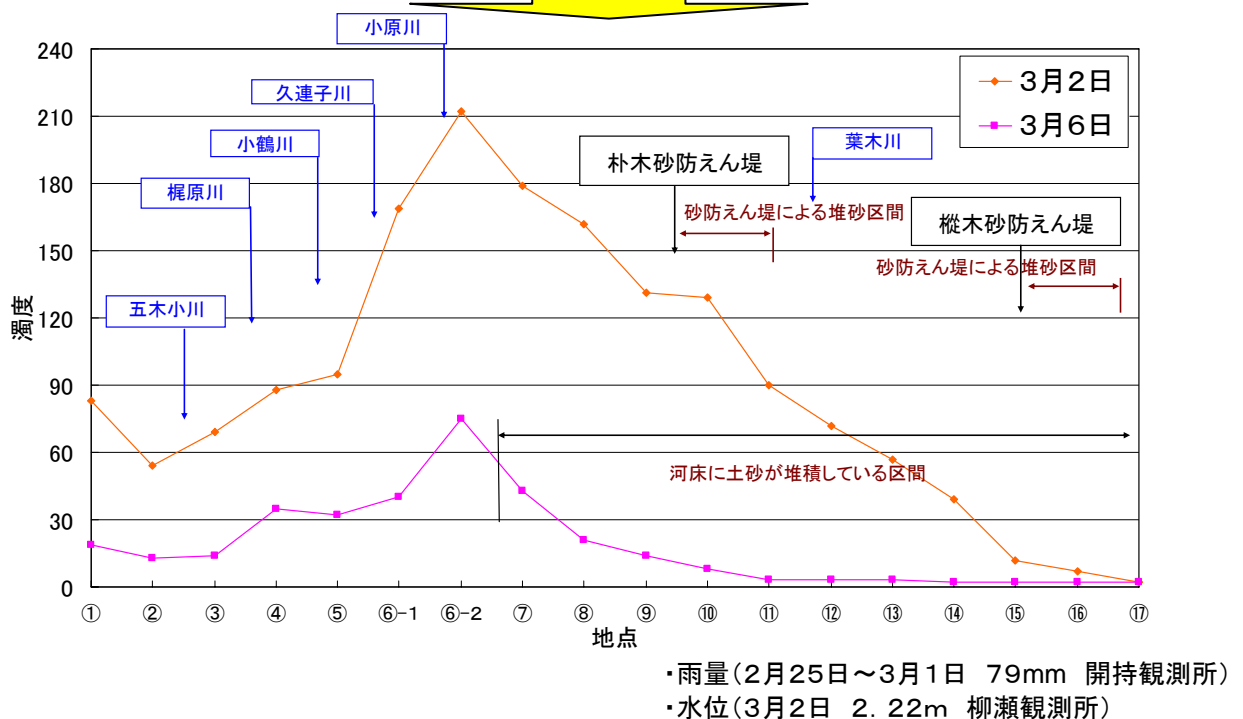
1)平成18年1月調査

降雨等により水位が上がり上流より濁りが発生したが、時間の経過に伴い濁りの発生源が下流へ移動している



2)平成18年3月調査

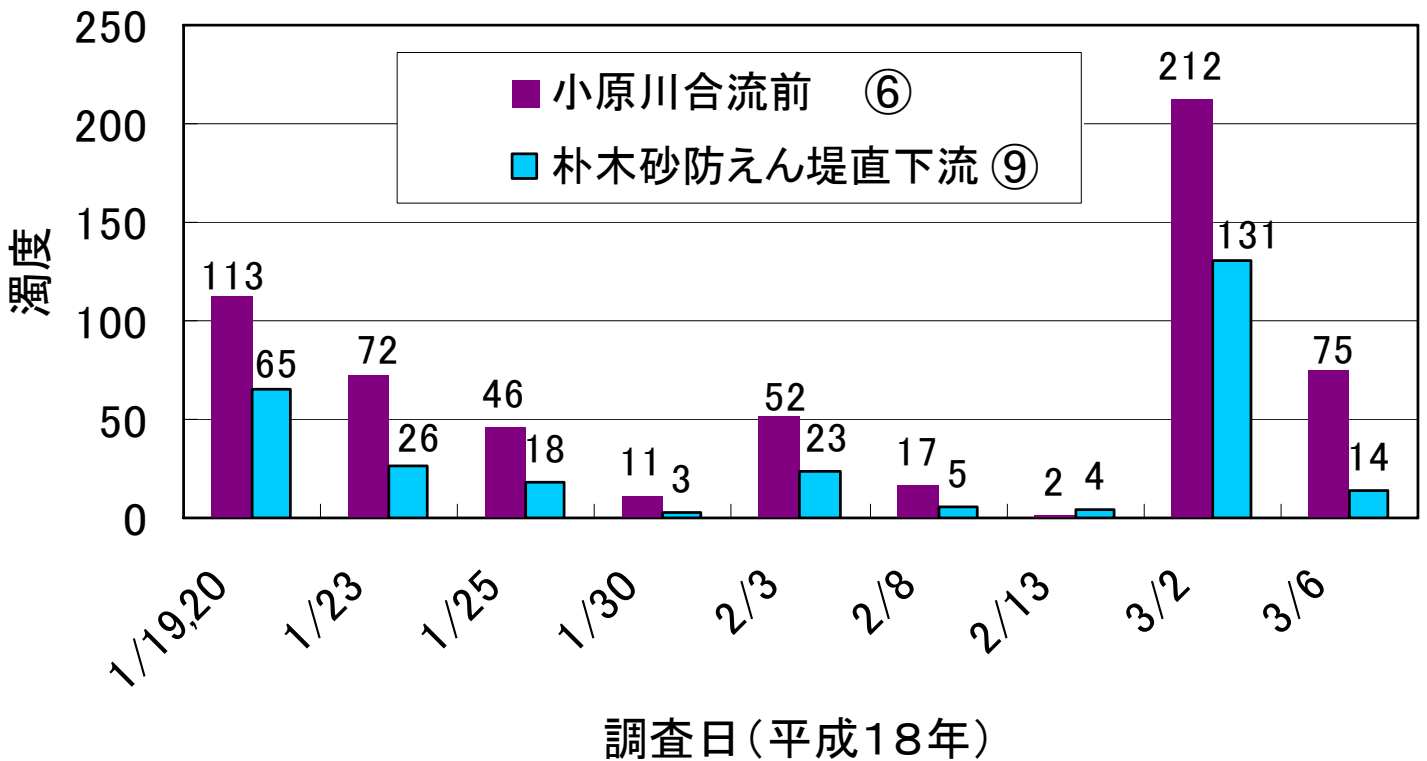
降雨により、1月19日より3月2日の水位が約30cm高い



- ・降雨により流量が増え、濁りの発生源が再び上流へ移動している
- ・流量が増えることで濁りが拡大している

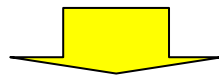
川辺川の流れ

濁度比較グラフ



【調査結果のまとめ】

- ① 1月19日20日の調査では、朴木砂防えん堤の約2.5km上流付近から濁度が高くなる
- ② 1月23日、25日の調査では流量が減少し濁度が高くなる地点が下流へ移動
- ③ 降雨により流量が増えることで、濁りの発生源が再度上流へ移動し、濁度もより高くなっている。
- ④ 全ての調査においても、朴木砂防えん堤下流の堆積土砂で大きく濁りが助長
- ⑤ 小原川合流点より下流については、支川からの澄んだ水により濁りが希釈される



◎河床に土砂が堆積している区間で濁りが発生・助長されており、濁度が高くなる地点は、河川の流量が増えると上流へ、河川の流量が減ると下流へ移動しており、砂防えん堤が濁りの主要因とはなっていません。